



郷土史

# ていね

第 14 号

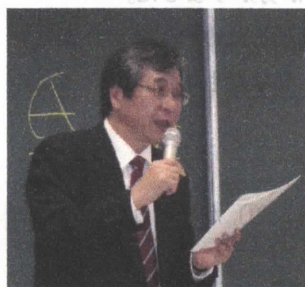
平成 21 年 2 月 11 日  
手稲郷土史研究会会報

第 33 回（平成 21 年 1 月 14 日）定例会の講演要旨

## 山口村入植の歴史 明らかに

北海道立文書館 総括文書専門員

山田博司氏



平成 21 年の新春を飾って、北海道立文書館の山田博司先生から、その昔山口県より北海道へ移住してきた歴史を当時の書きつけ（古文書）を通して教えて頂きました。今から 130 年も前に、瀬戸内海に面した山陽道山口の地より未開の北海道へ渡ってきて「山口村」という一村を形成したのが私たち手稲区内の山口、星置地域なのです。幾世代変ぼう激しくても先人の開拓精神が綿々と継がれてきている気がしてなりません。

明治 14 年、明治の開拓使時代も終わりを告げようとする頃、宮崎源次右エ門さんたち二家族が先発隊の任務を背負い、戸籍を抱え（送籍携帯）決死の覚悟で岩国を後にし、何日もかけて札幌にたどり着くのです。

早速入植の適地を求め山野を跋渉して、下手稲村内に「山口県移民願地」（貴重な絵図、今でも役立ちます）を申請しながら、翌 15 年ふるさとより大挙して 52 戸が移住、山口村の誕生を迎えました。

こうした経緯を難解な生史料である古文書を繰り返し繰り返し読み下してもらいました。

ごていねいに別紙解読文も用意されました。いかがでしたか。我が家で再度「移住民地所之義願」復習されますともう古文書講座受講の資格も可能ですね。これからも道立文書館、開拓記念館、札幌市文化資料室等々で開催されます講座にも挑戦しましょう。歴史が好きになること受け合いでしょう……。

なお今回時間不足のため大急ぎで説明された資料後半部分です、山口村入植の人たちが、ここ山口の地で「植産会社」組織にして開拓をおし進めようとした壮大な計画も知りました。結局ご破算になりましたが、開拓期北海道移住の一パターン（類型）が読みとれそうです。なぜ実現に至らなかったのか、郷土史研への課題にもなりそうです。

最後になりますが、先生は道立文書館所蔵資料についても詳しく紹介されました。

ここには本州からの移住資料がどっさり残されているのです。私たちの先祖は「内地の国元」からどのような道順を経てきたのか、各自の「自分史」探しにもなり得る、言わば「お宝の山」が眠っているところでしょう。そこにお勤めのチーフが山田先生であり、お住まいが手稲区内とお聞きしました。

これをご縁に（甘えてはいけません!!）私たちも「赤れんが」で学ぶ気構えをもちますか。一度閲覧室に足を運んでみる

ことによって、学習の要領も納得するものと思います。次に余裕ができましたら、先生が私たち手稲区民へのお年玉と称して「手稲関係文書」（明治 15～19 年までの札幌県時代の文書）全部を簿書番号つきで拾い出して頂きましたので、この「お宝」を郷土史研でプロジェクトでも立ち上げ調査したいものですね。実現すると「新札幌市史」等々にも記述されていない「手稲史」の入植期が解明されるのです。丑年の年明け、皆さんとで頑張ってください。

[文責：茂内義雄]

### 次回の予定

次回（3 月 11 日）は、一ノ宮博昭氏の会員研究「記憶の先端にある稲穂」を予定しています。また、後半は、今年度の反省と次年度の計画について意見交換を行います。



# 「山口郷土芸能同好会」及び「風雲太鼓」

山口郷土芸能同好会会長 松森剛氏



「山口」と聞くと反射的に「スイカ」と「カボチャ」を連想してしまいます。

松森さんのお話は、それを見透かしたようにカボチャのお話からスタートしました。

「大浜みやこ」を初めて築地市場に出荷した際には、「味はよいが土に触れた部分が黄色くて見栄えが悪い」と評されました。が翌年には「それでいい。もっともっとたくさん送って!」と注文がきたそうです。そして、あっという間にブランドになってしまいました。

昨今では人気がありすぎて手稲区民の私（高木）の口に入らないのが悲しい。

しかし、お話を聴くとそれが、研究と努力の賜物であることが分かりました。

堆肥の量による大きさや味の微妙な違い、品質の均一化をはかるための生産者の厳しい品質管理。水はけの良い砂地だったからラッキー!! などという簡単なものではなかったのです。

## 《風雲太鼓 — 誕生と今日までの歩み》

昭和 57 年、「盆踊り愛好会」が結成され、翌年「山口郷土芸能同好会」と改名され、「山口音頭」が生まれ、踊りは細谷先生がつけられました。

当事お母さん方がまだ若かったせいか、曲も踊りもテンポが速く……のお話の部分では聴いている会員に思わず納得の笑みがこぼれました。

「風雲太鼓」松森さんのお話によると、太鼓の音は 4 キロ先まで響き、それゆえに戦さに使われることもあった。また、太鼓の置き方で音質も変わる。戦さ場面で見られるクロスした台では音が分散する。従って四隅を支える置き方がベストである。高い所では横に置くのが望ましい。祭りの山車を思い描き、なるほどと思いました。

風雲太鼓のメンバーは、もちろん年を追うごとにうまくなるが、大学生、社会人になると止めていく人も多い。急にチームとして質を落とさないために、子供にも初めからきっちりとした難しい部分も教える。他チームのように何番手というような差別をせず、常に一人前を目指しているとのことだ。

だから力強く、リズム感に優れているんですね。実演を目の当たりにして身体中が震えました。



講師の松森さんから、子供たちに対する愛と情熱を感じた忘れがたい講義となりました。

[文責：高木秀子]

## カボチャ雑学

ニホンカボチャは中央アメリカが原産で、16 世紀にカンボジアからポルトガル船で日本に運ばれ、訛ってカンボジア → カボチャになった。

今はホクホクのセイヨウカボチャが主流。

カボチャの食べ頃は、デンプンと糖質が等量になる時。

果肉が赤みがかかった黄色、外観はヘタが、コルク状になった時、それまで風通しのよい所で熟成させます。

[文責：高木秀子]